

認定看護師の
活動について

がん化学療法看護 認定看護師

外来 副看護師長 渡邊 直美



がんは、日本人の2人に1人が一生の間に罹患すると
言われている病気です。

最近の「がん治療」は治療薬や治療方法だけでなく、治
療に伴う副作用に対する治療方法も次々と開発され、進
歩が大きく、複雑化してきています。

私は2011年にがん化学療法看護認定看護師になりま
した。がん化学療法看護認定看護師の役割は、がん治療
のひとつの薬物療法である化学療法(抗がん剤治療)を受
ける患者さんが、治療を安全に受けることができ、セル
フケアを実践できるよう援助することです。そのため
に、がん化学療法で使用される薬剤に関する知識を活か
して、薬物を投与するときの管理や副作用対策を安全に
また適正に責任をもって実施し、がん化学療法を受ける
患者さんやご家族とともに治療中におこる問題点を明ら
かにして、一緒に考えて適切な対応ができるように援助
を行っています。

現在、認定看護師として外来化学療法室で勤務をしな
がら活動をしています。当院には通院でがん化学療法を
受ける患者さんが快適に、安全に安心して治療を受けら
れるように設備が整った外来化学療法室があります。近
年、がん化学療法の治療の場は入院から外来へ移行して
おり、年々治療件数も増えて、1800件以上まで増加し
ています。(図1)

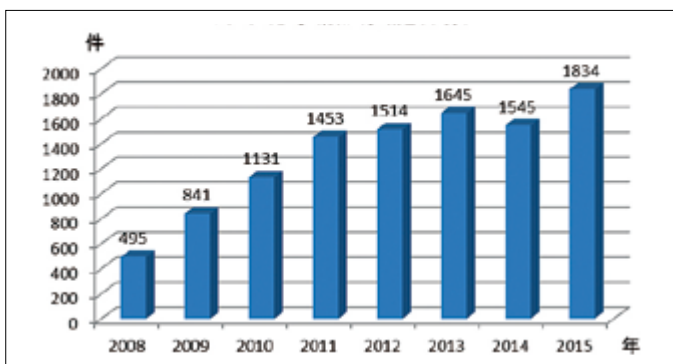


図1 外来化学療法実施件数

日々進歩するがん化学療法を提供するには専門的知識
が欠かせません。そのため治療薬の作用・副作用を日々
学習し、安全な投与方法を十分に把握して業務にあたっ
ています。治療中は1人ひとりの患者さんを回り、薬剤
の漏れがないか確認し、点滴の残量、速度の確認、患者
さんの状態を観察しています。また副作用の程度や日常

生活を送るうえで困っていることはないかなどお話を聞
き、医師や薬剤師などと協同し、チーム医療で患者さん
やご家族にがん化学療法を提供しています。

外来だけでなく、病棟でも安全に安心して看護ケアを
提供できるように、病棟でがん化学療法を行っている患
者さんの副作用対応や、スタッフからの新薬に関する相
談に対してアドバイスを行っています。また、院内研修
の開催や抗がん剤の曝露対策にも取り組んでいます。

がんと共に生きる患者さんにとって、化学療法を継続
することは大変なことです。ご家族のサポートも必要と
なり、時にはつらいときもあることでしょう。しかし、
患者さんが「病気と闘うために受ける」と決めた治療で、
最大限の効果が得られるように、患者さんやそのご家族
との対話を続けながら前向きに生きていくための支援が
できたらと考えています。そして、スタッフと共に微笑
みを絶やさず患者さんに寄り添うことができるように、
なんでも相談できる場所を目指し活動しています。

